資　料

佐久地域における昭和 30 年から 60 年代の保健師活動

Historical Study on Public health nursing Activities from 1955 to 1985 in Saku Rigion, Nagano, Japan

宮地 文子[*1]　東田 吉子[*1]　大渕 律子[*1]　別所 遊子[*2]　依田 明子[*1]

Fumiko Miyaji, Yoshiko Tsukada, Ritsuko Obuchi,
Yuko Bessho, Akiko Yoda

キーワード：保健師活動，退職保健師，グループ・インタビュー，長野県佐久地域
Key words : community health nursing，retired public health nurse，group interview，
Saku region Nagano Prefecture

要旨

昭和30・40年代に長野県佐久地域で新人として採用された保健師が経験した昭和30～60年代の保健師活動を、当事者へのインタビューから考察した。

佐久地域の就業保健師は、全国と比較して充足しており、母子保健・成人保健・地区組織育成・精神保健・保健計画事業の課題に挑戦していた。その活動は、長野県の農村保健師教育の中で動機づけられ、保健補導員など住民とともに(農民とともに)展開する地区活動の精神を原点としていた。

保健師活動の質向上を支えた要因として、先輩保健師の支援、ワーク・ライフ・バランスを得られやすい環境、保健所・保健師会での研修・相互研鑽、調査研究会活動、地域保健医療を牽引する指導者の存在、住民や関係者との絆と支持があった。

Ⅰ．はじめに

佐久地域の保健医療活動は、健康長寿社会をめざす先駆的モデルとして国内外から注目され、自治体や医療機関は多数の視察者、研究者、研修生等を受け入れている。

その歴史をたどると、我が国の農山村部共通にみられていた地域の健康課題に対して、昭和19年に開設した保健所、昭和20年代に始まった佐久総合病院の農村医療活動、昭和30年代から国保浅間総合病院が牽引した国保保健施設の地域医療活動を軸に、行政、医療機関、住民が一体になって取り組んだ保健医療活動の軌跡がある。これらの報告は、秋

受付日2015年10月2日　受理日2016年2月18日
*1 佐久大学看護学部　Saku University School of Nursing
*2 元佐久大学看護学部　Former Saku University School of Nursing

山(2013)、今村、岡田、金子(2010)等の他、従来から吉沢(1972, 1976, 1987)や佐久総合病院関係者(JA長野厚生連佐久総合病院, 2011; 松島, 横山, 飯嶋, 2011)他、多数紹介(文献参照)されている。

筆者らは、学生や海外の研修生等に当時の看護職の具体的な実践活動と看護の質向上の努力を伝える資料の作成を計画し、佐久地域における昭和20年代以後の看護職の実践活動と教育に関する資料を収集した。

本稿では、昭和30・40年代に長野県佐久地域で新人として採用された保健師が経験した介護保険制度開始前の昭和30年代から60年代の保健師活動を保健師数の推移、活動状況、活動を支えた要因について考察した。

Ⅱ. 研究方法

1. 佐久地域の保健師活動に関する既存資料の収集と分析

日本看護協会長野県支部佐久地域保健師(婦)会"佐久保健師会のあゆみ"第1～3報(1983, 1998, 2004)に掲載された会員名簿から、昭和20年代～平成15年度の年次別所属別保健師数推移表を作成し、野沢保健所管内の保健師就業状況の特徴を分析した。

2. インタビュー調査の方法と分析

1) 研究参加者

研究参加者は、佐久地域の退職保健師の会「長野県在宅看護職信濃の会佐久支部」(佐久市・小諸市・南北佐久郡)役員に、本研究目的と方法を説明し、研究参加者の条件を①退職時に所属機関で保健師の統括的な管理職、②本学内でのインタービューに応じられる健康状態、③現在佐久地域在住者とし、9名の研究参加が得られた。

2) 実施方法

(1)インタビュー項目: 参加者が経験した保健師活動に対する思いを語りやすい半構成的質問3項目「なぜ保健師になったか」「なぜ、佐久地域の勤務先を選んだか」「昭和30年～60年代で仕事をしていて一番楽しかったこと・遣り甲斐を感じたこと」のエピソードとした。

(2)グループ・インタビュー: 研究参加者の意見を取り入れて参加者が相互補完的に語りやすいグループ・インタビューとした。グループAは郡部で保健所や佐久総合病院による保健事業の協力が比較的多かった南牧村・旧八千穂村・旧臼田町・小諸市と保健所・佐久総合病院の退職保健師6名、グループBは佐久市の退職保健師3名とした。

(3)実施時期と場所: 各グループに約1.5時間のインタビューを2015年2月、佐久大学会議室で実施した。

(4)本研究メンバー全員が同席して代表者2名が質問者となり、インタビューの内容は研究参加者の同意を得てICレコーダーに録音した。

(5)事前調査: 年齢、看護職歴、現在の地域活動を問う調査票を予め送付してインタビュー時に回収した。

3) 分析方法

研究参加者が語ったエピソードをライフ・ストーリー(桜井, 2002; 桜井, 小林, 2005)法により分析した。ICレコーダーの録音内容から逐語録を作成し、3つの質問項目に該当する文脈を抽出した。各文脈は意味のある文節に区分し、語り手の思いが伝わるエピソードに留意し、文脈解釈の妥当性を確かめながら要約・コード化した。コードの抽出、カテゴリーの構造化と命名の妥当性については、共同研究者によって確認した。

3. 倫理的配慮

本研究計画は、佐久大学研究倫理委員会の審査を受け承認された(審査番号14-0012)。また、データの一部に実名を用いることにつ

表１　佐久地域における所属別保健師数の推移　（佐久保健師（婦）会のあゆみ　第1～3報会員名簿より作成）

		昭和19年	20から24	25から29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	平成1年	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
野沢保健所		4	9	9	4	4	4	4	4	5	5	6	6	5	5	6	5	6	7	6	6	6	6	6	7	6	7	6	7	8	7	7	6	6	5	—	5	5	6	5	5	6	5	6	6	5	6	5	6	6	5	7	7
			(5)	(4)			(1)		(1)	(3)	(1)	(1)	(2)			(1)	(1)	(1)	(2)	(3)		(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(2)	(1)	(3)	(1)		(2)	(2)	(5)	(2)	(1)	(2)	(2)	(2)	(1)	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(3)	(3)	(4)
南佐久・佐久地方事務所										1	1																																											
佐久市	野沢町	2		3	4	4	4	4	4	4																																												
					(4)																																																		
	大沢村	1	1	1	野沢町に合併																																																	
	桜井町	1	1	1							10	9	10	8	8	9	8	9	9	9	9	8	7	7	9	9	9	9	9	8	8	8	10	8	7	7	7	8	9	9	9	9	9	9	9	11	11	12	16	18	18	18	16
	岸野村	1	1	1							(4)		(1)		(2)	(1)		(1)							(2)	(2)	(1)	(1)		(1)		(1)	(3)					(1)	(1)							(2)	(1)	(3)	(5)	(2)	(2)	(1)		
	中込町	1	1	1	3	3	3	3	3	3																																											
	平賀村	1	1	1	中込町に合併																																																	
	内山村	1	1	1																																																		
臼田町	臼田町	—	—	—	1	1	—	—	—	4	4	4	4	4	2	2	2	2	2	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
										(3)										(1)		(1)			(1)											(1)	(1)						(1)		(2)				(1)			
	青沼村	1		1	臼田町に合併																																																	
	前山村		1	1																																																		
佐久町		1	—	—	—	—	—	—	—	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	4	4	4	4	5	5	5	6
		(海瀬村と合併)								(2)												(1)			(1)	(1)																	(1)			(1)				(1)		(1)
八千穂村		1	—	—	—	—	—	—	—	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	2	—	2	2	2	2	1	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	3	2	2	2	2	3	2	3	3	3	3	3	3	3	3
		(畑八村と合併)								(2)										(1)			(1)		(1)		(1)	(1)	(1)		(1)		(1)			(1)	(2)	(1)	(2)				(2)		(2)								
小海町	小海町	1	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	4	4
										(1)					(1)											(1)						(1)	(1)				(1)											(1)			(1)	
	北牧村	1	—	—	小海町に合併																																																	
南牧村		1	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3
										(1)								(1)			(1)					(1)																				(1)		(1)		(1)		(1)
北相木村		1	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	2	1	1	1	2
											(1)														(1)		(1)			(1)	(1)													(1)				(1)		(1)		(1)
南相木村		1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	1	1	1	1	1	1	1	1	—	1	1	1	1	1	1	1	1	1	—	1	1	1	1	—	1	1	—	1	1	1	1	1	1	1	1	1
															(1)																(1)						(1)							(1)	(1)	(1)					(1)		
川上村		—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		2	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1	1	2	2	3	3	3	3	2	3	2	2	3	3	3	3	3	3
										(1)	(1)	(1)														(2)		(1)	(1)		(1)		(1)			(1)	(1)	(1)		(1)			(1)					(1)					
佐久総合病院											2	2		1	2		2	2	2	2	2	3	1	3	4	5	4	4	4	5	5	5	5	6	5	7	9	8	8	8	8	*10*	*10*	*9*	*11*	*12*	*12*	*13*	*11*	*12*	*12*	*11*	*10*
											(2)			(1)	(1)							(1)		(2)	(1)	(1)	(1)	(1)		(1)	(1)		(1)	(1)		(2)	(3)	(3)				(2)	(2)	(1)	(2)	(4)	(1)	(2)	(3)	(2)			(1)
浅間病院																															1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2*	3*	3	3	2	1	1	1	1	1			
千曲病院																																						2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
小海赤十字病院																																										1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
黒澤病院																																												1	1	1	3	3	3	1	1	1
小海分院・診療所																																																1	1	1	1	1	1
八千穂村在宅介護センター・訪問看護ステーション																																													1	1	1	2*	2	2	2	1
訪問看護ステーション臼田																																													1	1	1	1	1	1	1	1
自宅(非常勤で保健師業務に従事)																			1														1	1			4	5	4	1					1	2	2	1	1	2	2	2	3
清和寮・老人ホーム														1												1																												
ＴＤＫ千曲川																									1	1			1	1	1	1	1	1	1	1		1*	1	1	1	1	1	1	*							
佐久農協・.佐久浅間農協																																		1	1	1	1													1	2*	2
臼田高校																																			1	1																	
臼田学園																																						1	1	1	1	1	1									

注1: ―は、保健所と市町村に、その年度に氏名の記載がない。
注2: (　)は、その年度の新在職者数を示す。ただし、浅間病院他は割愛した。
注3: ＊は、その年度に新在職者がいることを示す。但し、自宅者は除く。

いては記述内容の確認を求め、文書による同意を得た。

Ⅲ．結果

1．佐久地域における保健師の施設別就業数の推移

佐久地域には(表1)、昭和19年から野沢保健所の他15町村に保健師が就業していた。昭和20年代から30年前半の町村保健師の配置は野沢・中込・臼田の3町であったが、国民皆保険制度開始後の昭和30年代からほぼ全市町村に配置され、昭和50年代から人口小規模の町村も複数配置となった。佐久総合病院健康管理部の保健師は昭和30年代後半から増加し、昭和40年代から医療機関・事業所に、平成時代から在宅看護・介護他福祉部門等に保健師の配置が拡大した。

市町村保健師は定年までの就業者が多く、中途退職者は近隣の町村等に再就業する傾向がみられた。平成時代の在宅看護・介護他福祉部門には定年退職後の保健師が就業していた。

2．研究参加者の概要と佐久地域の保健師となった理由

研究参加者(表2)の年齢は70歳代と60歳代で昭和30年後半から平成10年代まで在職、8名が長野県立の保健師養成校出身者、全員が佐久地区保健婦部会の役員経験者で退職保健師の会に所属して地域の保健福祉活動を継続していた(佐久保健師会のあゆみ, 1983, 1998, 2004)。9名が語った佐久地域の保健師になった理由は、5つのカテゴリーに分類できた(表3)。まず、女性の社会進出が厳しい高校生時代に【生涯自立して専門職として働く意思】をもち、看護学生以後【看護の勉学に対する意欲】、【保健師への道をめざした動機付け】となる病院の臨床経験、教員・実習指導者、保健師モデルとの出会い、親の勧め、

表2　インタビュー協力者の概略

氏名・年齢	看護師・保健師歴(定年退職時の職位)
横山孝子 70歳代	長野県保健婦専門学院卒、看護師0年、佐久総合病院健康管理部保健師(在職38年 保健師長)農村の健康管理・農村医学的課題の究明、全県ヘルス健診、WHO脳卒中・がん共同研究に従事。
土屋信子 60歳代	長野県保健婦専門学院卒、看護師1年、野沢保健所保健師(県在職38年、飯田保健所技術専門幹兼保健予防課長)野沢・小諸・上田・更埴・飯田保健所に異動、うち野沢保健所勤務が最長。
市川孝子 70歳代	千葉県保健婦専門学院卒、看護師0年、習志野市を経て佐久市保健師、(在職33年 保健係長)佐久市入職3年目から市保健師業務を統括し、保健事業の推進・運営に携わった。
菊池智子 70歳代	長野県公衆衛生専門学校卒、看護師2年、保健師未設置の南牧村保健師(在職38年 南牧村社会福祉協議会事務局長)、若妻会、女性の集い、精神保健連絡会、NPOウイズハートさく等を育成。
八巻好美 60歳代	長野県公衆衛生専門学校卒、看護師0年、保健師歴34年。南牧村保健師の後、高森町・臼田町・臼田学園を経て八千穂村保健師として業務を統括、在宅看護支援センター開設等に携わった。
工藤美智子 60歳代	長野県公衆衛生専門学校卒、看護師19年、保健師15年。佐久総合病院健康管理部保健師。八千穂村、浅間病院、特養、訪問看護、佐久中部地域包括支援センターなど保健介護事業に携わった。
射手美津子 60歳代	長野県公衆衛生専門学校卒、看護師0年、小諸市保健師(在職37年 高齢者福祉課長)。小諸市保健師業務を統括、保健福祉事業の推進・運営に携わった。
神津公子 60歳代	長野県公衆衛生看護専門学校卒、佐久市保健師(在職36年 福祉部長)。教育委員会、佐久広域連合、福祉部など、他部門異動の先駆けとなった。
柳澤美智子 60歳代	長野県公衆衛生専門学校卒、看護師0年、保健師歴33年。軽井沢町・事業所の後、臼田町保健師(佐久市臼田支所保健福祉課長)。臼田町と佐久市合併後の保健福祉事業の推進に携わった。

表３　佐久地域の保健師になった経緯

カテゴリー	コード
生涯自立して専門職として働く意思	＊経済的に自立したい ＊職業婦人として生きたい ＊結婚後も仕事をしたい ＊看護職以外の女性の職業選択が狭い
看護の勉学に対する意欲	＊病院に勤務してもっと勉強したいと思った ＊看護学校卒業後もっと勉強したいと思った
保健師への道を目指した動機付け	＊病院の臨床看護を経験して予防の道に進みたいと思った ＊周囲の人の病気や死に接して予防の道に進みたいと思った ＊看護学生の実習で養護教諭か保健師になりたいと思った ＊看護学生の地域実習で出会った保健師に憧れた ＊NHKテレビ「孤島の太陽（高知県離島保健師の紹介）」に憧れた ＊信濃毎日新聞連載小説「ひまわりさん」の保健師に憧れた ＊父親が保健師への道を勧めた
長野県保健師養成校の教育	＊長野県保健学校の熱血教務主任の講義に憧れた ＊尊敬する講師の「これからは農村の問題」という講義を聞いた ＊学生も市町村保健師志望者が多かった
佐久地域の保健師求人に応じた	＊佐久地域の殆どの市町村が保健師募集をしていた ＊就職した市町村から強く誘われた ＊保健師学校の教務に勧められた ＊自宅から通える地元で働き続けたい ＊佐久総合病院の医療活動が面白そうだった ＊若月著「村で病気と闘う」に共感して病院のある地域を選んだ ＊山が好きで山村で働きたかった ＊先輩保健師に招かれて村を見学した

【長野県保健師養成校の教育】における農村保健師志向があった。

また、【佐久地域の保健師求人に応じた】では、各市町村からの要請、教員の進路指導、通勤の便、佐久総合病院の農村医療活動や先輩の活動も挙げられた。

３．実践活動で最も印象に残っている遣り甲斐があった活動

昭和30年代から60年代の実践活動の中で最も印象に残っている遣り甲斐があった・楽しかったことのエピソードは、7つの活動課題と地域特性からなる内容に分類できた（表4）。

【感染症対策】先輩保健師の経験として聞いた赤痢の集団発生予防から寄生虫や破傷風予防への活動の変化が語られた。【母子保健】【成人保健】は、地域特徴がみられた。【母子保健】では、佐久市の産科医・小児科医・助産師による活動、南牧村の若い母親の健康学習活動の試み、小諸市の乳幼児健診システムの改善が語られた。【成人保健】では、佐久総合病院健康管理部が八千穂村等で実施した全戸訪問を原点とする農村医療活動の県下への発展への係り、佐久市の全地区で浅間総合病院・保健補導員等と一体になって開始した成人健診事業の発展への係り、町村と佐久総合病院と協働で実施した地区活動への係りについて、保健師がエネルギーを注いだエピソード、【保健師未設置村着任後の活動】では、無医村・保健師未設置だった村の青年団活動から若妻会を組織し、精神障がい者支援や健康づくりの組織活動に発展させた取り組みへの係り、【健康づくり計画モデル事業の活動】では、全国でも先駆的に保健所が管内全市町村で実施した健康づくり計画モデル事業への係り、【保健部門外での活動】では、佐久市が全国的に先駆けた保健師の多元配置によるキャリア・アップ経験が語られた。【保健補導員と地区活動】では、全ての研究参加者から、

表４　昭和30年代から60年代の実践活動で最も印象に残る遣り甲斐を感じたこと

活動課題	地域特性	内容
感染症対策	全地域での経験	＊野沢保健所管内の赤痢集団発生は上水道が普及した昭和40年後半からなくなった ＊赤痢発生時は保健所と市町村が協力して検便・患者の隔離・消毒等に当たった ＊赤痢患者多数発生時は小学校体育館に隔離、大人が隔離された家の農作業を近所で手伝った ＊河川水の側溝で鍋釜・食器・米野菜を洗い、川で牛を洗い・子どもが泳いでいた ＊赤痢の集団発生が終焉すると、回虫・蟯虫対策や破傷風ゼロ対策になった ＊八千穂村の衛生指導員は定期的な大掃除・トイレや牛舎の消毒・蠅蛆駆除をした ＊佐久総合病院保健師は破傷風予防接種を農協を拠点に実施した
母子保健	佐久市での経験	＊母子保健は成人保健ほどクローズアップされた問題はなく進んだ ＊市内の産科医・小児科医・助産師が妊産婦や乳幼児健診等の事業に協力した ＊コンドームの購入を、助産師が家族計画協会から斡旋して喜ばれていた ＊助産師は集会所でペッサリーの個人指導もした ＊先輩保健師も受胎調節指導員の資格を取得して受胎調節指導に当たっていた
	南牧村での経験	＊医師・助産師不在で救急分娩介助をして、その子の成人式まで誕生日祝を頂いた ＊青年団での婚前教育から地区毎に若妻会を育成、婦人会と実態調査をして中絶の多さに驚いて、若妻会を通してコンドームを気安く購入できるようにした
	小諸市での経験	＊乳幼児健診見直しのために京都の乳幼児発達指導を視察した ＊医師診察前の問診で要フォロー児を把握して医師の診察に立ち会う方式にした ＊保健所の二次健診に紹介するシステムに改善し、保健所長が医師会の調整をした ＊保健所長が医師会と調整してシステムづくりが進んだ
成人保健	佐久病院での経験	＊当初健康管理部専任は保健師２名、医師・事務職は兼務、狭い部屋でスタートした ＊村での健診は炭火の暖房、健診結果報告を兼ねた全戸訪問で生活状況を把握した ＊蠅が飛ぶ蚕作業の中に乳児を寝かせ、「病院に用はない」と言われる訪問を続けた ＊八千穂村「冷えの研究」（若月）でストーブを入れて風邪予防・乳児の健康・医療費軽減の成果があり、生活を見る農村医学の素晴らしさを学んだ ＊ヘルス健診を県下に広げ、市町村職員・保健師・農協との連携で実施した ＊「予防は治療に勝る」「農民と共に」をモットーに、演劇を取り入れた健康教育をした ＊各市町村の事後指導に対する年間健康管理マネジメントが求められた ＊健診隊のスタッフは仲間意識が強くて楽しかった
	臼田町・八千穂村・南牧村での経験	＊胃がん検診受診向上のために佐久総合病院医師らと「胃袋学習会」を開催した ＊佐久総合病院の集団ヘルス・スクリーニングを全集落で実施した ＊健診後にお茶を飲みながら、身体のこと・塩分のことなど話し合う機会をもった ＊臨床医との協働の重要性を実感した ＊衛生指導員・地区組織員・佐久病院保健師等との協働でいろいろな事業ができた ＊事後フォローのため、村・佐久総合病院保健師・農協生活指導員・生活改善推進員・保健所等と保健協会を組織した
	佐久市での経験	＊浅間総合病院長（吉沢）指導で脳卒中死亡率改善を目標に成人病検診を全地区集会所で実施した ＊保健師は車で機材運搬・検尿・心電図も担当、その後浅間総合病院検査技師が協力した ＊全保健師が血圧計持参で家庭訪問をし、医師会のクレームには吉沢院長が対応した ＊朝昼晩味噌汁を３杯飲む人もいて、集会所で味噌汁の塩分測定をした ＊「一部屋温室づくり」は広い蚕家屋で家族が団欒する一部屋だけでも暖房をと啓蒙した ＊保健補導員と寒暖計を各戸配布して朝晩の室温を測定した ＊過去の健診受診年月を覚えていない人が多いため、「誕生月検診」を開始した ＊東大の医学科・保健学科生の調査協力、医師の寝たきり老人訪問調査協力があった
保健師未設置村着任後の活動	南牧村での経験	＊当初は何でも屋で交通事故や分娩にも立ち会い、過労で倒れて保健師２人になった ＊若妻会で育児・母親・家族の健康問題の学習をした ＊紙おむつの学習はごみ収集・精神障がい者作業所のアルミ缶分別協力・「女性の集い」の健康対策提言に発展した ＊嫁たちを扇動しているとイジメにあったが、若妻が育って村が変わると信じていた ＊キツネつきと呼ばれた精神障がい者が普通に暮らせるようにしたかった ＊群馬県東村の生活臨床活動を学び、佐久総合病院SW・保健所保健師らと精神保健連絡会、NPO法人の作業所センターやグループホーム設立に係った
健康づくり計画モデル事業の活動	上田保健所での経験	＊全国５か所健康づくり計画モデル事業を上田保健所が受けて担当者になった ＊保健所長が地域の実態を把握している保健師を担当者に指名した ＊始めに保健所の年間計画を作成し、そのノウハウを管内市町村に出向いて伝えた ＊５年間で管内全市町村が保健計画を作成した ＊この経験から、どんな事業もまとめ・評価・次期計画をすることに徹した
保健部門外での活動	佐久市での経験	＊在職35年間の半分は保健以外の部門（教育・福祉・広域連合）の業務に携わった ＊異動当初は孤立感もあったが、保健分野外の業務から学んだことも多かった ＊元厚生官僚の理事者は保健師の仕事に厳しい目を向けたが、女性の活動の場を広げ保健師を上級職に位置づけた ＊吉沢浅間総合病院長に「先を見て走りながら考えて仕事を」と叱咤激励されて仕事をした ＊佐久市障害者自立支援センターの機能強化に力を注いだ
保健補導員と地区活動	全地域での経験	＊小諸市では市長の方針で、保健補導員育成、全戸訪問による地区活動に力を入れた ＊地域を深く知ることができ、医師会とも理解しあえるようになって仕事が楽しくできた ＊地区長・衛生指導員・保健補導員などに育てられた ＊地区活動で出会った人たちには保健以外の部署に異動しても助けられた ＊地区活動こそ保健師活動だと実感した

地区活動のための全戸訪問、保健補導員育成、医師会等との交流とネットワークづくり、その中で保健師の力量が形成された経験が多数語られた。

４．佐久地域の保健師活動を支えてきた要因

現在の佐久地域の保健師活動を支えてきた要因について語られたエピソードを6カテゴリーにまとめた(表5)。

【先輩保健師の実績と退職後の支援】では、先輩保健師が医者代わりだと人々から信頼される実績をつくり、退職後は嘱託・非常勤・ボランテイアとして保健福祉事業を支援、個性的・おおらかで後輩の足を引っ張らない後輩育成、【ワーク・ライフ・バランスを支える職場風土と家族環境】では、産前産後休暇が少なかった時代に育児中の保健師を家族や職場が支える風土、【保健所の支援】では、保健所における研修会の重要性、保健所が国の施策のモデル事業を開始して市町村に定着させる支援、【佐久保健師会での保健師の交流】では、市町村・施設の保健師の繋がりが強く、保健師会で学び合い、良いところを取り入れ合う風土、【地域保健医療先駆者の存在】では、浅間総合病院吉沢院長、佐久総合病院若月院長、市長・管理職、保健所長、退職保健師など、県全体の地域保健医療を牽引する指導者の存在、【市町村関係者と住民の支持】では、地域医療の確保と充実のために努力し、保健師に期待と支援を寄せた市町村関係者や住民

表５　佐久地域の保健師活動を支えた環境要因

カテゴリー	コード
先輩保健師の実績と退職後の支援	＊助産･赤痢･結核･注射･薬の処方･ミルク配給なんでもして、医者代わりだと言われた ＊地域に根付いた活動が評価されて、後輩が「保健婦さんが来た」と地域で歓迎された ＊定年退職後は嘱託として、正規保健師３人体制を６～７の活動ができる協力をした ＊個性的、度量が大きく、若い後輩の足を引っ張らなかった ＊退職後も出会うと「しっかりやってる？」と声をかけ励まされた ＊老健法開始当時、国のモデル事業の佐久市在宅高齢者訪問調査に協力して、食べられない高齢者の体力低下･褥瘡発症を指摘し在宅歯科訪問健診開始に寄与した ＊退職後も市町村保健師を育てる意識が強く、国保連合会の研修で県下を巡回した
ワーク･ライフ･バランスを支える職場風土と家族環境	＊保健師は皆地元の人で、仲がいいと職員からうらやましがられた ＊保健師の中途退職者は、夫の転勤などによる人できわめて少なかった ＊保健婦は３世代家族で産前産後休暇６週間でも家族の支援があった ＊授乳休暇を昼休又は朝夕に取れる職場の協力があった
保健所の支援	＊保健所で毎月研修会があり、保健所保健師は指導力があって魅力的な人がいた ＊保健所が国の指針による事業を最初に開始して市町村に定着させた ＊保健所保健師が市町村の事業支援に来て情報交換ができ、他市町村の情報が役立った ＊保健所に市町村から要フォローのケースを送って意見交換をすることで保健師が育った
佐久保健師会での保健師の交流	＊保健師会はＷＨＯによる佐久市･南佐久の脳卒中登録システム事業や老人保健法のモデル事業等に係った ＊保健師が定着するよう勉強会(八の会)を始めた(現ＯＢ信濃会メンバー) ＊母子･成人･精神など各委員会で業務改善を検討して勉強した ＊先輩から視野が広がる学び、若い世代は統計技術を相互に学びあった ＊他の市町村から自分たちの欠けている事を懸命に取り入れあった
地域保健医療先駆者の存在	＊吉沢院長は佐久市保健師の血圧測定に抵抗した医師会を「僕が責任を持つ、将来は体温計と同様に血圧計を各家庭に備えたい」と説得、県下の国保施設の活動、保健補導員育成に力を注いだ ＊佐久病院は、郡部で農村医療活動(農薬中毒･農業事故予防、食の安全など)を進めた
市町村関係者と住民の支持	＊浅間･立科･御代田等５～６町村で国保診療所設置のために助役達が東大医学部に座り込んで支援を求め、浅間総合病院に吉沢医師が派遣された ＊市が開業医と意見交換に努め、医師会による市の保健福祉事業に対する理解と協力があった ＊地区長･衛生指導員･保健補導員たちに育てられ、地区活動こそ保健師活動と実感した ＊地区活動で世話になった人達は、異動して部署が変わっても保健師に協力してくれた

の存在が語られた。

Ⅳ．考察

今回の調査から、佐久地域の健康長寿に寄与したと考えられる昭和30～60年代の昭和期の保健師活動について以下の考察ができた。

１．佐久地域の保健師数の推移について

昭和27年厚生省府県別保健婦過不足調べで、保健師需要数を上回っている県は、長野(143人)、和歌山(106人)、山形(93人)、富山(22人)の4県で、当時のわが国の社会保障計画において、戦後の国保組合の財政悪化による国保組合閉鎖に伴う保健師活動後退への対策が課題であった(金子, 1992)。また、昭和63年の市町村保健師数と老人一人当たり医療費の関係では、長野県は人口10万対保健師数19.4(全国10.9)で全国5位、老人一人当たり医療費408,927円(全国576,712円)で全国1位であり、同年全国3213市町村で保健師未設置市町村数126、1人設置市町村数691であった(厚生省健康政策局計画課, 1993)。したがって、昭和30～60年代の佐久地域の保健師配置状況(表1)は、全国に比べ保健師が多かったと推測できる。

また、佐久保健師会のあゆみ(1983, 1998, 2004)から、佐久地域の保健師は定年まで在職し、定年退職後も嘱託等で活動を継続していた。

このような背景には、長野県下の国保活動を担う保健師育成のために、長野県における県・国保組合・市町村等の努力(日本看護協会保健婦部会長野県支部, 1972)と、それに応えた保健師活動があったと考えられた。

２．佐久地域における保健師の活動

日本看護協会保健婦部会長野県支部の佐久支部活動報告(1972)によると、同地域は戦前の“産めよ増やせよ”の母子保健、結核対策、戦後の伝染病(腸チフス、赤痢、日本脳炎、トラホーム、寄生虫病)対策、ベビーブームと貧困の中での母子保健対策を経て、昭和30年代から脳卒中対策、保健所を中心にした精神衛生協議会など、新たな健康問題に対する保健師の取り組みがみられた。したがって、今回の研究参加者のエピソードには、脳卒中死亡率の改善を掲げた生活習慣病対策、保健事業計画作成への着手、保健師多元配置の先駆となるキャリア・アップなど、今日の多様化・複雑化した地域保健活動(厚生省健康政策局, 1993; 奥山, 島田, 平野, 2013)の創設に挑戦した経験と、医療体制が不十分な農山村地域のヘルスケア創設の経験であったと考えられた。また、各活動は長野県の農村保健師育成の中で動機づけられた保健補導員など住民(農民)とともに展開する地区活動の精神を理念にしていると考えられた。

３．佐久地域の保健師活動の質向上を支えた要因

佐久地域における昭和30～60年代の保健師活動を担った保健師の活動理念と実践力は、学生時代に遡る保健師志向意思、探究心、地域の要請に対する誠実さ・責任感を軸に培われたと考えられた。また、保健師の資質向上を支えた要因には、先輩保健師の実績と支援、ワーク・ライフ・バランスを得やすい職場や家族の環境、保健所の支援、保健師間の繋がりと相互研鑽、地域医療の先駆者の存在、住民等関係者の支援があると考えられた。

謝辞

本研究に心よく協力して頂いた研究参加者および関係者に深く感謝します。

本研究は、平成26年度佐久大学研究補助金によって実施した。インタビューの詳細は図書館に保存する。

文献

秋山美紀(2013). コミュニテイヘルスのある社会へ. 岩波書店.

今村晴彦, 岡田柴乃, 金子郁容(2010). コミュニテイのちから“遠慮がちな”ソーシャルキャピタルの発見. 慶応義塾大学出版会.

金子光(1992). 初期の看護行政. 日本看護協会出版会.

菊池智子(2011). 保健師は住民の代弁者. 地域保健, 42(8), 64-78.

厚生省健康政策局計画課編(1993). ふみしめて五十年―保健婦活動の歴史―. 日本公衆衛生協会.

JA長野厚生連健康管理センター(1985-2015). 健康スクリーニングの歩み第1-20号.

JA長野厚生連佐久総合病院(2005). 農村医療の原点.

JA長野厚生連佐久総合病院(2011). 健康な地域づくりに向けて「八千穂村全村健康管理五十年」.

松島松翠, 横山孝子, 飯嶋郁夫(2011). 衛生指導員ものがたり. JA長野厚生連佐久総合病院

長野県看護協会(1998). 看護のあゆみ50周年記念誌.

長野県看護協会佐久支部保健師職能委員会(2004). 佐久保健師会のあゆみ第3報.

長野県, 長野県国民健康づくり計画モデル事業推進協議会, 上田保健所編(1986). 保健計画策定のための検討資料集.

長野県国保直診医師会(1970). 健康管理シリーズNo.2　脳卒中とその予防―信濃国の卒中死亡率日本一を返上しよう―. 長野国保連合会.

長野県国保地域医療推進協議会(1975). 信濃の地域医療. 長野県国保連合会.

日本看護協会保健婦部会長野県支部(1972). 30年のあゆみ.

日本看護協会長野県支部佐久地区支部保健婦会(1983). 佐久保健婦会のあゆみ第1報.

日本看護協会長野県支部佐久地区支部保健婦会(1998). 佐久保健婦会のあゆみ第2報.

奥山則子, 島田美喜, 平野かよ子編(2013). ふみしめて七十年―老人保健法後約30年間の激動時代を支えた保健師活動の足跡. 日本公衆衛生協会.

桜井厚(2002). インタビューの社会学―ライフストーリーの聞き方―. せりか書房.

桜井厚, 小林多寿子編(2005). ライフストーリー・インタビュー質的研究入門. せりか書房.

臼田町(2003). 健康うすだ21. 臼田町.

八千穂村(1985). 村ぐるみの健康管理二十五年.

八巻好美(2005, 2009). 私の仲間. 自費出版.

吉沢国雄(1971). 住民の健康を守るために―地域医療と保健施設活動―. 長野県国保地域医療推進協議会.

吉沢国雄(1972). 国民健康保険と地域医療―住民健康管理における国保直診施設および国保保健婦の役割に関する研究―. 長野県国保地域医療推進協議会.

吉沢国雄(1975). 脳卒中とその予防―信濃の国の脳卒中死亡率日本最高位を返上しよう―. 長野県国民保健団体連合会, 長野県国保地域医療推進協議会.

吉沢国雄編(1976). 佐久市保健予防活動のあゆみ―脳卒中予防対策を中心にして　第28回保健文化賞受賞記念―. 佐久市健康管理センター.

吉沢國雄(1987). 検証地域医療―国民健康保険と保健予防活動の成果―. 社会保険新報社.

全国保健婦長会長野県支部(1999). 保健婦(士)のあゆみ・ながのけん.